

支部長退任挨拶

長岡技術科学大学 大塚 悟

平成から令和への「御代替わり」は、天皇の御在位の中に、穏やかに、国民の祝意を持って執り行われました。JGS 北陸支部も令和への御代替わりにあやかり、創設から 60 年の節目を華々しく迎える矢先に、コロナウイルスの衝撃が社会環境を震撼させる事態に陥りました。支部総会がキャンセルされる事態は思いの外のことですが、突発的な事象に対応するのは土木技術者の真骨頂です。この事態を乗り越えて一刻も早く平常に戻ることを祈念いたします。しかし、何故かこの騒動が社会変革の号砲に思えて、学会も新しいフェーズに向かう気がしてなりません。

還暦（60 周年）が一周年を経て初心に戻ることとすれば、支部活動も令和 2 年に向けて新たなスタートを切る必要性があるように思います。学会は人の集まりであり、学術の発展を目指す集団です。リソースは人材と知財が全てです。私が危機感を抱くのは、この 2 つの柱に危うい予兆のあることです。人材の危機は若手会員の減少です。将来を担う会員の減少は極めて深刻な問題です。我が国では少子化が社会問題化していますが、学会の少子化はどこに問題がある

のでしょうか。学会はボランティアですから、会員がメリットを感じなければ成り立ちません。技術の研鑽や新しい情報の収集、技術者間の交流を思い浮かびますが、これらのメリットは現在も昔も変わらないように思います。ではどこに会員減少の原因があるのでしょうか・・・、私が思う原因は社会の「成長への意欲」と「寛容」の減退です。会員は仕事を持つために、社会（企業）が学会活動の意義と効果を認めなければ活動できません。学会の知財は会員（企業）の成長への情熱に支えられています。高度成長期後の長い経済低迷期を経て、トップランナーのつもりが集団に巻き込まれて世界の中で順位を下げ続けている現在であるからこそ、企業も個人も変革の号砲を機に前へ進む時期が来ているように思います。会員の活動・助言により、企業の効率性の理念（経営方針）が学会価値の再発見に繋がることを期待します。

今回は支部総会を会員の委任状に基づいて実施致しますが、テレビ会議システムを利用する方法も取り入れる必要があります。居乍らにして用を済ます効率的な方法ですが、アナログな人間には「無駄」も必要な気がします。もし、支部総会がテレビ会議で行われるようになれば、支部の存在意義は半減するよう感じます。斯様に試行錯誤のトライアルが続きます。学会は新陳代謝が適

切に行われて、若い活力を引き出すことが期待されています。支部長の役を終

えるに当たり、支部の益々のご発展をお祈り申し上げます。